

②地震災害防災マニュアル

高知市立春野西小学校

1. 目的

甚大な被害を及ぼす東南海・南海地震は、いつ発生してもおかしくない時期にきている。大地震発生時における被害・混乱を最小限に抑え、児童等の命を守るため、学校防災マニュアルを作成する。

2. 地震発生時の対応

地震は、時と場所を選ばず発生するため、さまざまなケースを想定した対応方法を事前に考え、防災訓練を実施する等、自分の命を自分で守ることができる力を育てていくことが大切である。特に、休み時間や登下校中等、教職員が直接指導にあたっていない時に地震が発生した場合、児童の所在を把握し、避難、誘導を安全かつ的確に行うことは、極めて難しい。そのため、登下校時、授業中、休み時間、校外活動時等における避難、誘導、対応方法の基本を予め定め、共通理解を図っておく必要がある。

(1) 被害想定

想定地震

震源域 紀伊半島から足摺岬にかけての沖合約 200 k m の南海トラフトから一部陸域を含む陸側の区域
地震規模 マグニチュード 8.4 (1854 年 安政南海地震規模)
震度状況 震度 5 強～7

※ 平成 16 年 3 月第 2 次高知県地震対策基礎調査から(平成 24 年度中に国から新しい想定が発表されるため、今後変更する。データは 23 年度のものである。)

※ 下記から情報を得ておく。

○ 内閣府防災情報のページ

<http://www.bousai.go.jp>

○ 高知県ホームページ

→組織で探す

→危機管理部

→南海地震対策課

<http://ww.pref.kochi.lg.jp/soshiki/010201/>

(2) 南海地震が発生した場合の初期対応

南海地震の特徴

○長く 強い揺れ！ その後には、必ず大津波！

○他の震源域との連動で巨大化の可能性も！

1 地震発生！ 大事な頭をまず守る！

《家や建物の中にいたら》

○丈夫なテーブルや机の下などにもぐる

《外にいたら》

○落下物に注意し、頭をカバーし、安全な場所に逃げる

2 津波への対応

東日本大震災では、これまでの想定を上回る大津波が発生し、児童生徒をはじめとする多くの尊い命が奪われた。高知市においても地殻変動による約 2 メートルの地盤沈下とともに大津波による被害等が想定されている。そこで、津波への対応は次のとおりとする。

<避難方法等>

- 学校は、海拔 7.4 m、2 階の床高 3.5m で、24 年 12 月発表の 10 m メッシュでは浸水地域に指定されていない。また、学校に一番近い浸水地域の津波 1 cm 到達時間は 670 分である。仁淀川からの越流は心配がないということなので収容避難場所になる。大きな津波がない場合は、学校にいる方が安全である。
- 大きな津波があった場合は、近くの高い場所へ避難する。（高度紙工業・琴平神社等）
- 点呼は、安全な場所に避難してから行う。
- 津波警報等が解除されるまでは、絶対に戻らない。
- 避難中は、保護者に児童を引き渡さない。（事前に保護者に周知徹底しておく。）

<避難を行う基準>

- 100 秒以上の強い揺れを感じた時
- 津波警報または大津波警報が発令された場合

3 震度及び津波情報等の情報収集

南海地震時には、テレビ・ラジオ等震度速報や津波情報が放送されるので、速やかに情報収集する。また、教職員の安否の確認、参集状況の把握を行う。なお、停電することを想定して、乾電池やバッテリー等で稼動する携帯型ラジオ等を常備する。